

新潟市急患診療センターだより

第8号 2018年4月



第8号にあたって

近年にない豪雪だった長い冬が終わり、ようやく桜咲く春が訪れました。新入園、新入学、そして新社会人としての一步を踏み出す人も多いと思います。新しい環境に早く慣れ、新たな人間関係をうまく築くようにお願いします。それには、同僚や友人・家族との会話、バランスの良い食事と十分な睡眠、休日に体を動かすなどしてストレスを解消することが大切です。

病気の知識として、こどもの脱水症と急性アルコール中毒を掲載しました。また、昨年ご協力をいただいた窓口アンケート結果をのせてあります。最終ページには、診療時間、交通アクセス、救急疾患検索サイトのアドレスなどが掲載されています。



病気の知識

こどもの脱水症

“受診時期の見きわめが大切！”

- ・脱水症とは、体の中の水分が足りなくなっている状態をいいます。家庭で対応して様子をみてよいものから入院が必要になるものまで程度はいろいろです。
- ・原因は①口内炎で痛がって飲まない場合や吐き気が強くて飲めない場合など、体の中に水分が入ってこない状況が続いている。②発熱や嘔吐・下痢などで体から水分が出ていく状況が続いている、などです
- ・乳幼児は大人より水分量を調節する能力が未熟です。さらに新陳代謝が活発で不感蒸泄（見えない汗）が多いこと、大人に比べて体の水分量が多いことなどの理由で水分の欠乏に敏感に症状が出現します。また、赤ちゃんでは「のどが渴いた」と言うことができないので周囲が心配りしてあげないといけません。

【脱水症状】

基本的に、立って歩いたり、遊んだりしているこどもは強い脱水はないと考えてください。また下記の症状が一時的に見られても様子を見ているうちに消失すれば脱水の可能性は低いでしょう。

こどもの脱水の時にみられる症状は

- ・吐き続けているうちに、だんだん顔色が悪くなり、肌の色・爪の色が白っぽくなってきた（皮膚の脱水の強いときには血の気の引いた色（蒼白い色、土っぽい色）になります）。
- ・だんだん元気がなくなってきて、遊ぼうとせず、ごろごろと横になっていることが多くなった。
- ・周りに興味を示してキョロキョロすることがなくなり、ボーっとした目つきをするようになった。
- ・おしっこの回数や量が少なくなる（水様便のこどもではおしっこの回数・量の判断は難しいです）。
- ・横になって目を閉じて苦しそうに大きな息をしている。目を閉じているのは目を開けるのさえ、つらいからで、少し刺激すると薄眼を開けて力なく泣くが、すぐに目を閉じて苦しそうな息づかいに戻る。

などがあります。



自宅で様子をみる



- ・嘔吐や下痢の回数が多くなく元気が良ければ家で経口補水液を与えて様子をみて、翌日に小児科を受診するのもよいです。

【経口補水液と飲ませ方】

- ・急性胃腸炎などでの脱水症の予防や軽度の脱水症の治療には、経口補水液が理想的な飲み物です。ドラッグストアなどで買えるものとしてはOS-1（オーエスワン®）やアクアライト®ORSなどがあります（OS-1は急患センターの自動販売機にもあります）。

- 家庭でも、湯冷まし1 Lに食塩3 g（小さじ1/2杯）、砂糖40 g（大さじ4.5杯）、好んで果汁（レモンやグレープフルーツなど）を混ぜて作ることができます。
- 脱水の時には一回量を少なく、頻回に飲ませましょう。最初は5cc（ティスプーン1杯）から始めて、数分おきに飲ませてください。おう吐が見られなければ少しずつ1回に飲ませる量を増やしていきます。母乳やミルクの場合も少しずつ、何度も与えてください。

急患センター等へ



行く

- 吐き続けて、何も飲めないとき。
- 上記の脱水の症状が続いているとき。

救急車を



呼ぶ

- 意識障害やけいれんが見られたら救急車を呼んでください。

急性アルコール中毒

“イッキ飲みは絶対にしない・させない！”

- 急性アルコール中毒とは、大量飲酒による意識障害、運動失調や激しいおう吐を伴う状態を言います。
- 血中アルコール濃度が0.4%以上では死に至る危険性が高く、意識障害、血圧低下、激しいおう吐、尿・便失禁などの症状が出てきます。
- おう吐物がのどに詰まり窒息死することがあります。
- ゆっくり飲酒している時には、危険な状態になる前に飲酒を中止できますが、“イッキ飲み”では、中毒症状の出現前に大量に飲酒してしまい重症化します。
- 飲酒経験の少ない若者は適量の飲酒がわからないため、コンパや新人歓迎会などでの“イッキ飲み”が原因で救急搬送される人が多いので絶対やってはいけません。
- 個人差はありますが、日本酒で7合、ワイン（750mL）では2本、ビール中瓶では5本で急性アルコール中毒の危険性が高くなります。適量は日本酒では男性で2合、女性で1.5合以内です。

【酔いの四段階】

1. ぼろ酔い（血中アルコール濃度 0.05から0.1%）
おしゃべりになる、陽気にはしゃぐ、脈が早くなる、判断力が鈍るなど。
2. 酩酊^{めいてい}（血中アルコール濃度 0.1から0.2%）
足がふらつく、何度も同じことを言う、吐き気、記憶が途切れるなど。
3. 泥酔^{でいすい}（血中アルコール濃度 0.2から0.3%）
立てなくなる、言葉が支離滅裂、意識がもうろう、激しいおう吐など。
4. 昏睡^{こんすい}（血中アルコール濃度 0.3から0.4%）
ゆすっても呼んでも反応しない。死の危険がある。



【症 状】

- 意識がなくなる、おう吐、言葉が出ない、頭が痛い、どうき、息苦しさ

【予 防】

- “イッキ飲み”は命を奪うこともある人権侵害（アルコール・ハラスメント）なので絶対にしない・させないで下さい。
- アルコールの代謝能力は人それぞれなので自分の適量を知り、その日の体調にも注意して下さい。
- 空腹のときは、飲酒しないで下さい。

自宅で様子をみる



待つ

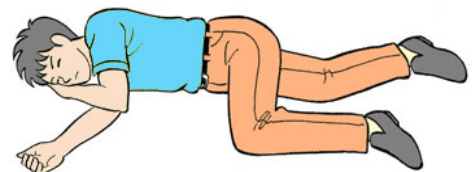
- 酩酊状態の場合は、一人にしないで慎重に様子を見て下さい。
- おう吐物で窒息しないよう横向きにして下さい。

救急車を



呼ぶ

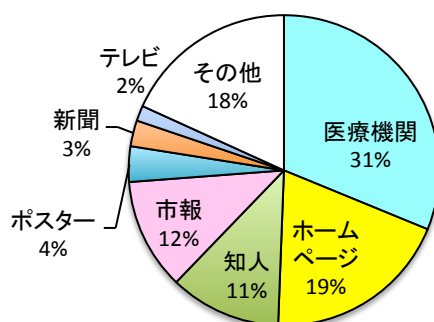
- 激しいおう吐の後、呼びかけても反応しない時は、ためらわずに救急車を呼んでください
- 泥酔状態で放置するとおう吐物がのどにつまり窒息したり、車にひかれたり、眠り込んで低体温症で死亡するなどの危険性があります。
- 昏睡状態になるとゆすっても呼んでも反応しなくなり、死の危険性があります。
- 脳障害で植物人間になることもあります。



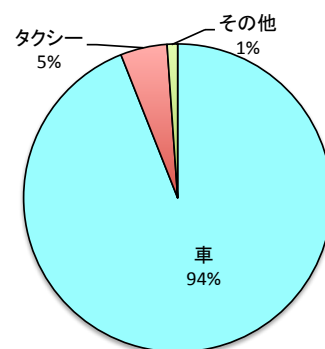
急患診療センター 窓口アンケート結果について

当センターでは、毎年受診された患者さんに窓口アンケートを実施しており、昨年10月11日～25日に実施した結果の一部を紹介します（総受診者数1,483名、回答者数455名、回答率30.7%）。受診のかたからアンケートにご協力いただいた方に感謝し、今後の急患診療の質向上に役立たせていただきます。急患診療センターのホームページと救急疾患検索サイトには是非一度アクセスしてみてください。（最終頁にアドレスがあります。）

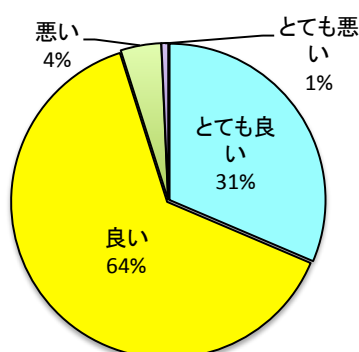
センターを知った方法



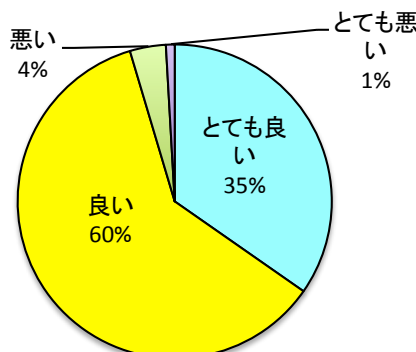
交通手段



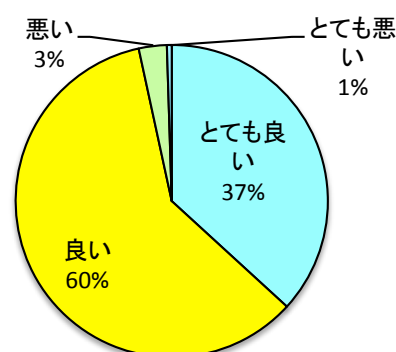
全体の満足度



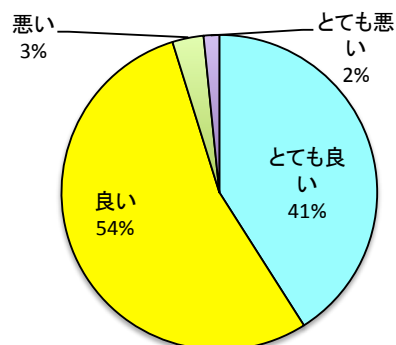
診療が終わるまでの時間



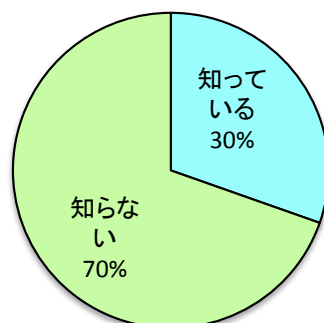
受付・会計の対応



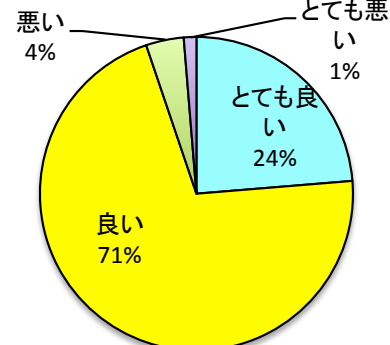
医師・看護師・薬剤師の対応



急患診療センターのホームページ



ホームページ内の救急疾患検索サイト



Q & A （質問に答えて）

Q：深夜受診した時にレントゲン撮影（X線撮影）ができないといわれましたが、診療時間内であってもレントゲン撮影ができないことがあるのですか？

A：レントゲン撮影（X線撮影）は、整形外科や外科の診療時間帯（平日の午後7時から午後10時まで、土曜日午後3時から日曜日午後10時まで）が対応可能となっています。呼吸器や腹部などの症状で、内科・小児科でレントゲン撮影ができない時間帯に必要と医師が判断した場合は他の医療機関へ紹介するなどして対応します。

また、頭部CT撮影については、脳外科の診療時間帯（日曜・祝日午前9時～午後6時、受付は午後5時30分まで）において撮影が可能なので、受診し必要かどうか医師に相談して下さい。

診療時間

★土曜日午後3時～10時の「整形外科」は在宅当番医となります。（在宅当番医は毎回替わりますが、新潟日報土曜日朝刊の紙面、ホームページでは「新潟医療情報ネットの当番医案内」に掲載されます）

診療科目	診療日	診療時間
内科 小児科	平日	午後7時～翌日午前7時 (受付時間：午後7時～翌日午前6時30分)
	土曜	午後2時～翌日午前9時 (受付時間：午後2時～翌日午前9時)
	日曜・祝日	午前9時～翌日午前7時 (受付時間：午前9時～翌日午前6時30分)
整形外科	平日	午後7時～午後10時 (受付時間：午後7時～午後9時30分)
	土曜(★)	午後10時～翌日午前9時 (受付時間：午後10時～翌日午前9時)
	日曜・祝日	午前9時～午後10時 (受付時間：午前9時～午後9時30分)
外科	平日	診察はしていません
	土曜	午後3時～午後10時 (受付時間：午後3時～午後9時30分)
	日曜・祝日	診察はしていません
産婦人科 眼科 耳鼻咽喉科 脳外科	平日	診察はしていません
	土曜	診察はしていません
	日曜・祝日	午前9時～午後6時 (受付時間：午前9時～午後5時30分)



＜急患診療センターの理念＞

市民と共に
市民に信頼される
救急医療の継続提供をめざします

＜理念の説明＞

- ① 市民の理解と協力、支援により円滑な運営が可能になります
- ② 職員は、質の高い急患診療を提供できるよう努力いたします
- ③ 超高齢社会、医師不足のなか、診療体制の維持継続を行うことが必要です

あとがき

雪国に住む人にとって待ち遠しかった、美しい春がやってきました。これからの新潟は、桜、チューリップなど多くの花が咲き乱れます。進学、転勤などで環境が変わった方は、体調管理に注意してお過ごし下さい。

新潟市急患診療センター

ホームページ <http://www.niigata-er.org>

新潟市医師会による救急疾患検索サイト

<http://www.niigata-er.org/search/>

発行：新潟市急患診療センター

〒950-0914新潟市中央区紫竹山
3丁目3番11号

TEL 025-246-1199